

令和5年度 小学校教員向け環境教育研修会 実施報告  
「やってみよう！環境学習プログラム」  
第3回「校庭で自然を探そう！」（テーマ：自然・生活）

- 実施日時 令和5年8月4日（金）9時30分～12時00分  
□実施場所 福生市立福生第五小学校  
□実施方法 ハイブリット（対面 + オンライン）形式で実施。

□実施内容

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. 講師からの講義・体験

講師：NPO 法人自然環境アカデミー 野村亮 氏 谷村春樹 氏

（1）環境学習のポイント ～体験の重要性～

小学校の校庭をフィールドに、身近な自然について学ぶことで、自然と人間の暮らしとが上手く関わり合い、循環・持続する社会について学ぶ。

（2）それぞれの活動

<対面>

①講義

環境学習のポイント、校庭での自然観察の方法（同定、名前の由来など）、安全の確保などについて講師から説明を受け、自身の受講目的、目標などを発表。



## ②校庭での自然観察

実際に校庭にて観察を実施。植物や虫探しを通じて、講師より子供たちが関心を持てるような観察方法を学んだ。触ってみる、においを嗅ぐ、形を観察するなど



### <オンライン>

#### ① 動画による校庭にある植物の観察

事前に撮影した観察している様子の動画を視聴し、「名前を付けてみよう！」を実践した。



スマートフォンで同定する場合のメリット、デメリットがあるので両方のいいところを利用する。

## <対面+オンライン>

### ③講座開始

前半の体験で印象に残ったことや気づいたこと、授業として取り組む際の課題などについて班ごとにディスカッション。オンライン参加者を含め班ごとに観察会での気づき、課題について発表を行った。



### ④情報交換会

この日の研修を通じて気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、グループごとに発表し受講者で情報を共有した。

#### (質疑応答及び受講者同士の意見発表)

- ・校庭には取り上げるような植物もなく学校内でのフィールドワークが難しい。校外への外出もハードルが高い。
- ・フィールドワークに出る前の下調べが重要だと思った。
- ・虫よけや熱中症などの危険に対処しておく。
- ・教師が興味を持って本気で面白がることが一番生徒を引き付けるということを学んだ。
- ・「教師が教える」のではなく、「自然から学ぶ」という授業を作っていきたい。

#### (実施例や課題に対する講師からのアドバイス)

- ・安全を確保する。虫、熱中症、危険な植物(校庭に危険な植物はないはず)に気を付ける。
- ・植物の名前など、必ずしも先生が正解を知っている必要はない。子供たちのなんでだろう?という疑問を引き出して発見することの楽しさや自分で調べる力をつけてもらうことが重要。

◎事務連絡、アンケート記入等(事務局) アンケート提出後、解散